

## 国際天然ガス情勢の展望

### <報告要旨>

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所  
化石エネルギー・電力ユニット ガスグループマネージャー  
研究主幹 小林 良和

### 2016-2017 年の天然ガス価格の展望

1. 国際 LNG 市場においては、当面の間供給超過の状態が続くものの、2017 年にかけて原油価格が徐々に上昇していくことによって(本定例研究報告会「国際石油情勢の展望」参照) LNG の長期契約価格も同様に上昇していくと予想されるため、日本着 LNG 価格も徐々に上昇していく見通しである。2016 年後半の日本着 LNG 価格は、\$6.60/mmbtu、2017 年(通年平均)の日本着 LNG 価格は\$7.40/mmbtu になると予測する(2016 年の 1~5 月の実績は\$7.0/mmbtu)。
2. LNG スポット価格については、今後供給超過の状態が拡大していくため、\$5/mmbtu 前後の水準で弱含みで推移すると考えられ、長期契約価格とスポット価格との価格差が拡大していく可能性がある。

### 需要動向：伸び悩む世界の天然ガス需要

3. 2011 年の国際エネルギー機関による「World Energy Outlook」は「ガスの黄金時代到来か?」とする章を設け、シェール革命の進展と世界的な天然ガス需要の増加が進むことで、安定的なエネルギー供給と気候変動対策の両方を同時に達成することができる「黄金時代」が実現する可能性を指摘した。しかし実際には、世界の天然ガス需要は増加こそ続けているものの、当初期待されていたほどの市場拡大は実現していない。
4. その理由として挙げられるのは主として需要サイドの要因である。世界経済の減速と途上国を中心としたエネルギー需要全体の伸び悩み、価格競争力のある石炭や政策的な支援を受けた再生可能エネルギーとの発電部門における競合、アジア市場においては原油価格リンクによる価格の高止まりなどといった要因である。
5. 今後の LNG 需要を展望する上では、やはり中国やインドを始めとする新興国の需要動向が重要である。2016 年 6 月に発表された国際エネルギー機関による「Midterm Gas Market Report」においても、2015 年から 2021 年にかけて、中国・インド両国の天然ガス需要の増加量は全体の 47%に相当

すると予測されており、両国のマクロ経済の動向やエネルギー需要、石炭等他燃料との価格競争力、国内の天然ガス生産動向によっては、LNG 需要も大きく拡大する余地がある。また短期的には、余剰となった LNG は欧州市場に吸収されることになるため、供給側の事情によって結果的に欧州の LNG 需要が増加するという事態も想定される。

#### 供給動向：重要性を増す北米の供給能力

6. 供給サイドにおいては、2016 年と 2017 年の 2 年間で、米国や豪州を中心に約 7,400 万トンもの新規の LNG 生産能力が追加される見込みである。その多くが、原油価格が高水準にあった時期に投資決定がなされたものであるが、結果として同期間の需要増加を大きく上回る能力の増強がなされることになるため、足元の供給超過状況はさらに拡大していく。このため、幾つかの新規案件では稼働開始の延期や稼働率の調整が見られる可能性が高い
7. こうした状況下、今後の上流部門における投資低迷が懸念されるが、計画段階の案件としては、中長期的な需要の増加を満たすだけの十分な規模の案件が存在している。今後の LNG 供給能力の確保においては、特にカナダや東アフリカ等の新規案件のスムーズな立ち上げが重要となる。
8. 2016 年 2 月、米国本土からの LNG 輸出が開始された。現状は大西洋市場を中心に輸出されており、アジア市場に対しては明示的なインパクトはまだ生じていない。しかし、米国では 2020 年にかけて 6,000 万トン以上の供給能力の増加がなされる見込みであり、こうした仕向け地条項を持たない LNG が大量に市場で取引されるようになることの意義は大きく、国際 LNG 市場における流動性の向上や、価格指標創出の効果などにも期待が集まる。

#### LNG 市場の創生に向けて

9. 低廉かつ供給柔軟性の高い LNG 調達を実現すべく、2016 年 4 月に経済産業省によって「LNG 市場戦略」がまとめられた。流動性の高い LNG 市場の存在は、天然ガス市場の健全な拡大を促すのみならず、何らかの供給途絶が発生したような緊急時においても柔軟な LNG 融通を可能にすることで、供給セキュリティにも資するという点が重要である。
10. LNG ハブの創設についても具体的な動きがみられており、TOCOM は 2014 年 9 月に JOE において LNG 店頭市場を開設し、Singapore Exchange も 2016 年 1 月、シンガポール地点での価格指標の取引 (SGX LNG Index Group: SLInG) を開始している。今後こうしたハブの運用をより実効的なものにしていく上では、まずは仕向け地条項の撤廃を柱とする取引柔軟性の向上に注力し、その上で、価格指標の信頼性向上や取引条件の標準化といった、活発なスポット取引がなされる環境整備を進めていくべきである。